



●江古田ミツバチプロジェクト

終了!

①ミツバチとハチミツを活かす講演会

日時：2月23日(土)午後1時30分～4時
会場：武蔵大学1号館1101教室(大教室)
講演：「ミツバチの驚くべきハチミツづくりとその栄養素・効能」(講師：玉川大学ミツバチ科学研究センター教授)
「美容と健康に効くハチミツ生活」を、開催しました。(日本はちみつマイスター協会本部講師)

②こどもをのばす親子「食」実習教室

日時：3月17日(日)午後2時～4時
会場：石神井公園区民交流センター料理実習室
定員：(お話)親子合わせて30名(実習)小学生15名
内容：(1)「お話とハチミツ試食」(2)「お話とハチミツケーキづくり」

募集中!

●申込方法：

名前(小学生は年齢も)、住所、電話番号を記入、FAXかメールで申込
(担当：谷口紀昭) FAX：03-3992-0892
メール：eco-tani@jcom.home.ne.jp

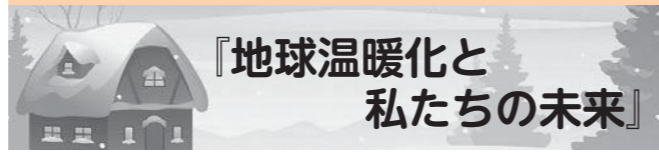
●まち環境

平成30年12月23日に石神井公園駅前にてポイ捨て防止キャンペーンを行いました。

●ねりま・ごみフォーラム

平成31年3月17日、豊玉リサイクルセンターで堆肥の講座を開催。平成31年度の消費生活展参加。

《区民環境行動講演会のお知らせ》



これまで考えられなかったような台風、大雨等による自然災害が日本列島を襲っています。この大きな原因は地球温暖化にあると言われています。改めて地球温暖化の現状、未来に及ぼす影響について考えます。

講師：江守 正多氏
国立環境研究所 地球環境研究センター副センター長
日時：平成31(2019)年3月23日(土) 午後2時30分～4時30分
定員：100名(事前申込制・先着順)
主催：練馬区民環境行動連絡会 練馬区環境課
会場：練馬区役所本庁舎 地下多目的会議室
申込方法：ハガキ、FAX、または電子メールで、
①講演名 ②郵便番号・住所 ③氏名(ふりがな)
④電話番号を明記のうえ、平成31年3月11日(月)(必着)までにお申込ください。
申込先：〒176-8501 練馬区豊玉北6丁目12番1号
練馬区役所本庁舎18階環境課環境計画推進係
FAX：5984-1227
メール：kankyou02@city.nerima.tokyo.jp



《お願い》-「もっと!青い空」の充実にご協力を!-

「練馬区民環境行動連絡会」は区民・事業者が策定した「練馬区民環境行動方針」に提案されたプロジェクトを具体化するため、平成17年4月に結成された組織です。練馬区の支援を受け、環境にやさしい取り組みや環境に配慮した生活を進めるために活動しています。

当会の活動報告と皆さんが身近でできる環境行動について、年2回発行の機関紙「もっと!青い空」で提言しています。さらに充実した内容とするため、下記のご協力をお願いします。

①「巻頭インタビュー」で取り上げて欲しい方 ②練馬区内で先駆的な環境活動や実践をされている個人、企業、団体のご紹介、または情報をお知らせください。編集会議で検討のうえ、取材に伺います。

連絡先：練馬区石神井町2-14-1 石神井公園区民交流センター団体活動室内・練馬区民環境行動連絡会
電話・FAX:03-3996-6351



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

編集・発行
練馬区民環境行動連絡会
練馬区石神井町2-14-1
石神井公園区民交流センター
団体活動室内
http://nerima-kankyo.tokyo/
会長 大島 いずみ
協力
練馬区環境部環境課
練馬区豊玉北6-12-1
電話 03-5984-4702



巻頭インタビュー「この人に聞く!」

ペットボトル回収率100%を!

日本コカ・コーラ株式会社部長 柴田 充さん

世界的な問題となっているプラスチックによる海洋汚染。海洋を漂うプラスチックごみの中には、リサイクルの優等生とも言われるペットボトルも多いとの指摘もあります。

そのような中、世界的な飲料メーカーであるコカ・コーラ社がペットボトルの100%回収をめざすとともに、廃棄物ゼロに取り組んでいると聞き、その取り組みを聞きに、真っ赤な建物が印象的な日本コカ・コーラ本社に行きました。



(プロフィール)
日本コカ・コーラ(株)環境サステナビリティガバナンス部長。
1969年埼玉生まれ。
小学校5年生の時に「中国のパンダが絶滅の危機にある」と聞き、500円を環境保護団体に寄付したら、パンダからお礼の手紙が届き、環境保護に目覚めました。

★コカ・コーラのめざす世界は「廃棄物ゼロ」の世界

コカ・コーラは「世の中にさわやかな瞬間を! (refresh the moment)」という企業の理念を持っています。

それは飲み物だけでなく、容器も含めて「さわやかな瞬間」であることを目指しています。

飲料を提供する上で、容器は重要な意味を持っています。

海洋プラスチックの問題に対応するだけでなく、容器の使用も「さわやかな瞬間」であるためにプラスチック飲料容器、ペットボトルを賢く使って、それをごみにしない社会をつくっていかうという基本ビジョンを決めました。

そのビジョンは3つの大きな柱で構成され、達成に向けての行動を決めました。

★「デザイン」「コレクト」「パートナー」

その3つとは、「デザイン」「コレクト」「パートナー」です。

第1の柱「デザイン」には2つの目標があります。

まず、「すべての容器をリサイクル可能な容器にする」ということです。

目標の第1は「ペットボトルはリサイクル可能な容器」と位置づけることです。日本ではペットボトルはリサイクル可能な容器として、容器リサイクル法によって、家庭での分別も進んでいます。でも、世界的にはまだそこまでの意識がない国が多くあります。

第2は「再生素材を使う」ことです。ペットボトルは石油から作られています。再生



素材でペットボトルを作ることによって、枯渇資源の石油を守ります。また、再生素材で作るほうが二酸化炭素の排出量も削減ができます。もう一度ペットボトルからペットボトルを作るような取り組みも増やしていきます。

第2の柱「コレクト」の意味は、「販売量と同じ量の容器を回収してリサイクルする」ことです。

ペットボトルは日本全体では92%がリサイクルを目的に回収されています。コカ・コーラの目標は販売量と同じペットボトルの量を回収するということですが、日本全体での回収率向上にも貢献していきたいと考えています。もっと回収しようということです。

最後に第3の柱「パートナー」についてです。これに数値目標はありません。ただ、今まで掲げた目標を達成するためには、私たちだけでできることではないので、社会のインフラとして行政、市民、他の事業者と共に廃棄物のない世界をめざそうというものです。

★ペットボトル自体の環境配慮

現状のペットボトルの主たる原料は石油です。そこで、資源の枯渇の観点からも軽量化と素材の見直しに取り組んできました。

ところで今の小型のペットボトルの容器の重さを知っていますか？

実は容器自体は20g程度しかないのです。皆さんご存知の水のブランド「いろはす」の555mlペットボトルの重さは12g程度です。小型のペットボトルが、流通した当初は、容器の重さは、例えば水製品なら32gありました。その後いろいろな工夫をして軽量化をしてきました。

でも軽量化にも限界があります。容器というのは、中身の保護が目的なので、ただ軽いだけではいけません。輸送の段階では、ペットボトルをダンボールに詰めて、ダンボールを重ねていきます。ダンボール自体もこのペットボトルで支えられています。あまり軽量化が過ぎると、破損等で輸送効率も悪くなることも考えなくてはなりません。

一方、素材自体の見直しも行っています。ペットボトルは通常、石油から作られています。大きく2つの材料で構成されるのですが、先ほどお話ししたいろはす容器では、その一方に植物由来の

素材を使用しています。植物由来といっても、それはトウモロコシやトウキビそのものではなく、食に回らない部分を使っています。

サトウキビは絞って砂糖を作りますが、砂糖にならない副産物が出ます。そこからペットボトルの原料を作ります。副産物の有効活用も兼ねています。

もう一つは再生材の活用です。現在の一部の製品群のペットボトルは1本あたり最大3割の再生材が使われています。

★回収と再生のため、市民にできること

使用済みペットボトルをペットボトルの再生材として活用するためには、消費者がリサイクルに出す段階でいかに綺麗な状態に出してもらえかが大切です。再生時の品質や効率に関わってきます。綺麗な状態で回収できればできるほど、リサイクルは進みます。

自治体回収ではかなり綺麗なペットボトルが回収できますが、それ以外はかなり汚い状態での回収となっています。自販機の隣りに置いてある回収ボックスをごみ箱と思っているのではないかと、ごみを入れているのだから良いことをしたと思われているのかもしれない。

もっと綺麗な状態で回収できたら良いのですが…。飲み残しの中身を捨てるのはもちろん、できればキャップやラベルをはがしていただくと助かります。

ただ、回収ボックスに出す方もその時はリサイクル意識があるけれど、出したその先がどうなっているかが見えていないので、綺麗に出す必要性まで思いが至らないような気がします。そこをもっと伝えられる努力も必要だと感じています。そこはこれからのチャレンジです。

余談ですが、柴田さんの義理のご両親は練馬区大泉に在住だそうです。「ペットボトルだけでなく、容器包装類も自治体回収の中では練馬区は特に綺麗な状態で回収されると回収業者さんにお聞きしたことがあります」とお話ししたら、大変嬉しそうでした。

(聞き手：大島 いずみ)



イベントにはマイ容器・マイはし持参で!

春日町南地区区民館館長
木村 裕子さん

●地区区民館の役割

「地域の方が世代を超えて楽しんでもらう」ことを目的に、現在区内には22の地区区民館があり、春日町南地区区民館は18番目の館として誕生しました。「異年齢交流ができる館をつくろう」と企画された地区区民館構想に基づき、当館も児童開放事業（地域の子どもの遊び場の提供）、おやこ広場事業、子育ての広場「ぴよぴよ」（保育士が子育ての相談に応じたり、親子遊び、保護者の交流）、敬老開放事業（カラオケ、入浴など）、集会施設事業（一般の方に部屋の開放）があり、地域の方が施設を利用してダンス、歌、空手などサークル活動も楽しんでいます。



木村裕子館長

●館が行うイベントには「マイ容器・マイはし」で

館利用者および地域の皆さん（こどもから大人まで）対象に地域の親睦交流を深めることを目的として館が毎年行っている行事があります。それは10月の第1週の「えんがわ市」と1月の第3週の「もちつき大会」です。

「えんがわ市（縁日）」とは、こどもたちがゲームを楽しんだり、焼きそばやポップコーンなどの模擬店で地域の方に一日楽しんでもらう行事です。その時に、参加者の方には、マイカップとマイはしを持ってきてもらっています。もちつき大会もマイお椀とマイはしを持ってきてもらっています。春日町南地区区民館の地域の方はごみについての意識が高いです。私が来た時にはもう、当たり前のように定着していました。

●活動と交流の場の拠点として

施設運営は練馬区と地域の皆さんが参加する運営協議会で行っています。地域の活動と交流の場の拠点として、いろいろな世代の方に地区区民館をご利用いただき、楽しんでいただけると嬉しいです。皆様のお越しをお待ちしております。

(聞き手：大島 いずみ)

地域密着型環境ボランティア活動

練馬・野草四季の会会長
狩野 長子さん

●環境活動のきっかけ

2000年、練馬区公園緑地課長から提案と助言を受け、練馬区の緑化推進に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的に「みどりの地域サークル」が発足しました。

「練馬・四季の会」も、当初7グループで発足した「みどりの地域サークル」の一つとしてスタートしました。会員は「練馬区緑化協力員」のOB・OGを中心に11名で始まった「練馬・四季の会」ですが、現在では会員数は20名（男性11名、女性9名）と増えています。

活動拠点は、田中山憩の森（谷原5）です。ここでは、希少野草類（約84種）の保護、育成管理を行い、その他には練馬高野台駅前にあるフラワーポット花壇の保守管理の活動を行っています。



田中山憩の森（満開の曼珠沙華）

●今後の目標

会も発足から20年近くが経過しました。その間に私達の地球環境は著しく変化しています。特に2011年の東日本大震災のような想像を絶する災害の経験は、私達生かされている者は、如何にして「緑の地球」を守っていくかが試されている気がします。

「練馬・四季の会」の20名は、小さなことから日々努力をしようと、活動拠点である「田中山憩の森」から外に出て、会員以外の方々もお誘いし、自然観察会を行っています。

自然観察会では、動植物の生活環境の観察、環境の変化によると思われる動植物の変化や現況を一緒に調査をしながら、「地域密着型ボランティア団体」として、自然保護の対応策を研究しています。



練馬高野台駅前（フラワーポット）

今後も、練馬区と協働で、環境改善に取り組んでいきたいと考えています。更なる行政からのご指導を期待しています。

(文：山田 耕三)